

# 梅雨のおすすめスポット



公園の中央にある「茶屋ヶ坂池」の斜面一帯には、約100品種・6,000株以上のアジサイが植えられています。毎年6月頃には鮮やかな花々が咲き誇り、散策しながらの鑑賞にぴったりです。

名古屋市千種区「茶屋ヶ坂公園」



2026年夏頃の開業を予定の「あいち健康の森 全天候型あそびば」木育×全天候型のあそびばが、0歳から安心して遊べる木のぬくもりあふれる室内空間で、雨の日でも天候を気にせず子どもたちが思いきり体を動かせるよ!

大府市「あいち健康の森公園」



「カワイイ」と「映え」の宝庫パステルカラーやネオンで彩られた館内は、どこを切り取ってもフォトジェニック!「うんこ=汚い」という概念が180度覆る、おしゃれな空間でジメジメした梅雨を笑いで吹っ飛ばせ!

名古屋市港区うんこミュージアム

## モ子 よもやまばなし

### 水無月：紫陽花の間

みなさん、6月ですよー!今年は先月からもう蚊の活動がはじまっているみたいです。冬の定番インフルエンザもこの時期にかかる人もいます。色々な季節外れがあたりまえになりつつありますね。もうこれは季節外れを楽しもう!って事ですかね?やってみようじゃないですか!!今日の夕食は「あつあつ鍋」です!!

### モネ没後100年 クロード・モネー風景への問いかけ 風景の“余白”に没入するという体験

東京・アーティゾン美術館で開催されていた「クロード・モネー 風景への問いかけ」を訪れた。きっかけは、京都にあるアサヒグループ大山崎山荘美術館で観た《睡蓮》だった。安藤忠雄建築の静かな地下空間の中で観たモネの作品は、「絵を観る」というより、その風景の中へ入り込むような感覚だった。

そして今回、改めて驚かされたのは、モネの繊細な表現である。白の中に存在する無数の色。輪郭ではなく、光や空気を描くような筆致。気づけば作品を「鑑賞する」というより、その空気の中に没入していた。

なぜモネの絵は、こんなにも人を癒すのだろう。それはきっと、「答え」を押し付けてこないからかもしれない。

現代は、短い動画や強い言葉、わかりやすい結論で溢れている。いつの間にか私たちは、常に「理解すること」を求められている。でもモネの作品には、その圧力がない。一曖昧な輪郭。揺らぐ光。静かに溶け合う色彩。

だからこそ、観る人は自分の感覚で作品の中へ入っていきけるのだと思う。「伝える」だけではなく「体験させる」。それは、これからのデザインにおいてとても大切なことなのかもしれない。



Erika

『プロ野球観戦』

◎その一歩が決めてです。

先日、バンテリンドームで野球観戦してきました。

野球好きの私としては、「守備に注視」

ピンチの時は、相手の打者ごとに内外野の選手は半歩、一歩、二歩前後左右にポジションを移動する時があります。場合によってはもっと大きく移動します。

ピタリとその場所に打球が飛んでアウトを掴みとったり、時には逆を突かれヒットを許したりと、守備の醍醐味を満喫。

そしてファインプレーは、その時のポジショニングと最初の一歩の出足が決めてかと妙に納得したり。

素人の野球評論を友人と楽しみました。

